RESAS

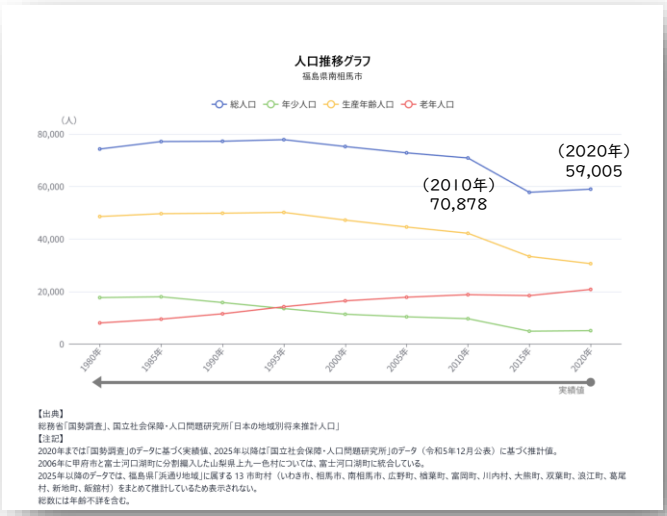
を分析してみよう

福島県
南相馬市

RESAS（地域経済分析システム）は、地域経済に関する様々なデータ（産業の強み、人の流れ、人口動態など）をグラフで分かりやすく「見える化（可視化）」したシステムです。
データに基づいた地域の実情を把握・分析できるので、ぜひ参考にしてみてください。

https://resas.go.jp
RESAS

人口



＊人口マップ→人口構成分析→人口推移

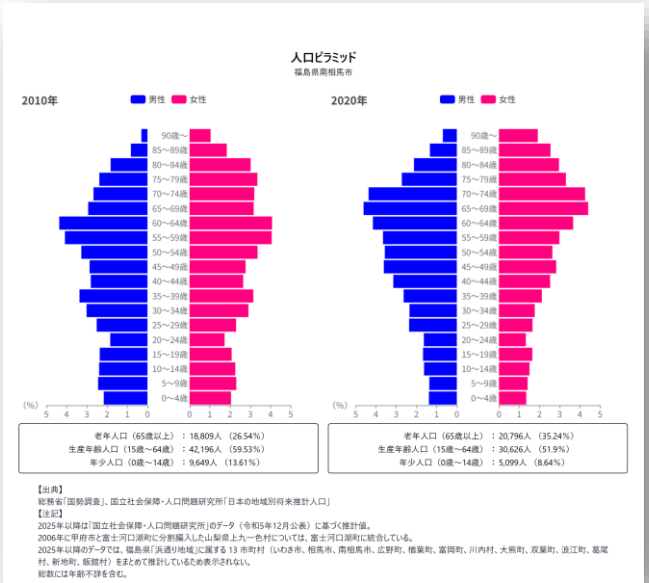
年齢別人口推移

2020年の人口は総人口59,005人。10年前（2010年）の70,878人と比較して減少しており、今後も減少傾向が続く可能性が高い。
また、年齢別に傾向をみると、年少人口や生産年齢人口は減少傾向、老年人口は増加傾向にあり、老年人口割合が増加する傾向にある。
よって、少子高齢化が一層進んでいく地域である。

※年少人口は15歳未満、生産年齢人口は15～64歳、老年人口は65歳以上をさす。

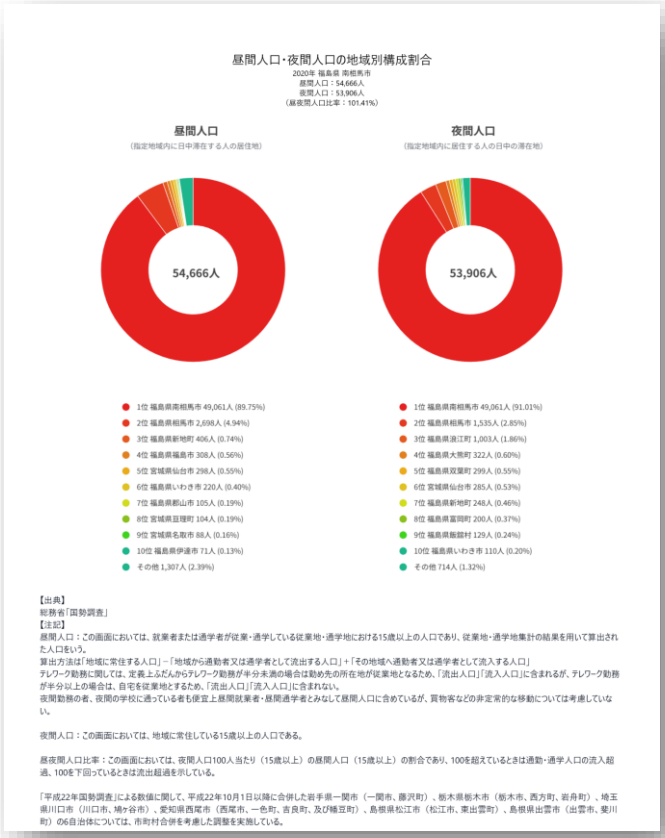
人口ピラミッド

現在と将来の年齢別人口構成を示したグラフである。2020年の人口ピラミッドは「つぼ型」である。老年人口の割合をみると、2010年の26.54%から2050年には35.24%まで増加する。また、生産年齢人口は2020年の59.53%から51.9%まで減少する見込みである。



＊人口マップ→人口構成分析→人口ピラミッド

人口



＊人口マップ→通勤通学人口分析→地域間流動

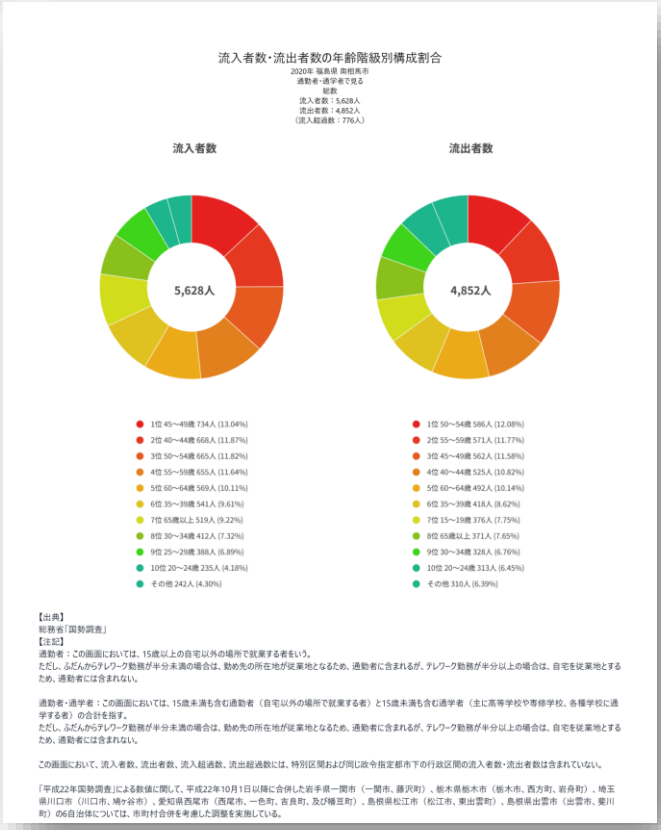
滞在人口（2020年）

昼間人口と夜間人口を地域別構成割合で示したグラフである。
南相馬市の昼間人口は54,666人、夜間人口は53,906人である。昼夜間人口比率101.4%と、通勤・通学等での人口流入が多いことがわかる。

※15歳以上の人口を対象として算出している。

流入・流出者数（2020年）

南相馬市内外への流入・流出者数を年齢階級別構成割合で示したグラフである。流入超過数が776人と市外からの流入者が多い地域であることがわかる。
また、流入者数は45～49歳、流出者数は50～54歳がもっとも多くなっている。



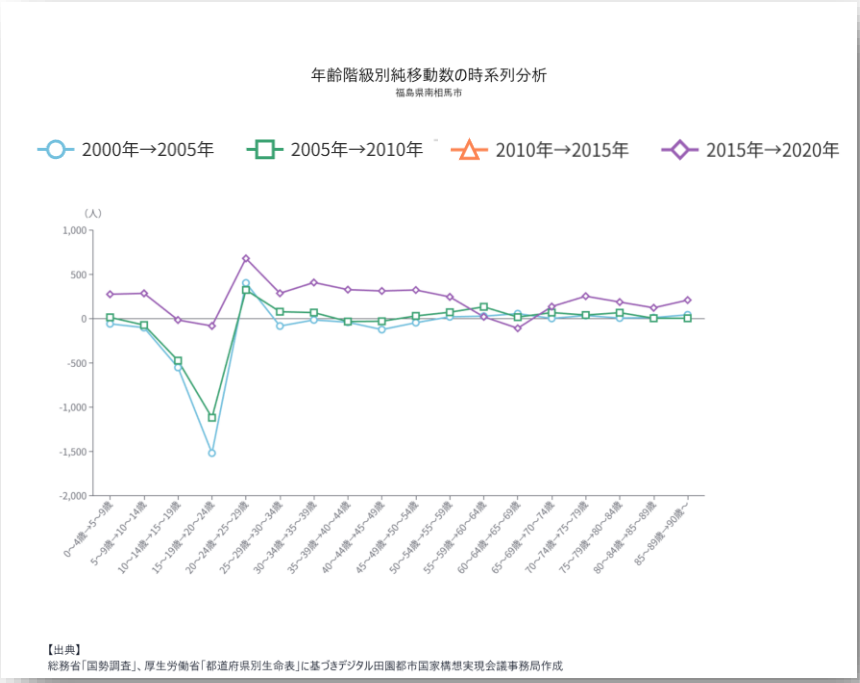
＊人口マップ→通勤通学人口分析→属性別流動

人口

年齢階級別純移動数時系列分析

年齢階級別純移動数の時系列推移は、主に大学進学時（15～19歳→20～24歳）に人口が流出し、就職時（20～24歳→25～29歳）に人口が流入する。その後、30～40歳代では概ね均衡に近い水準で推移しており、子育て世代以降定着傾向にある。

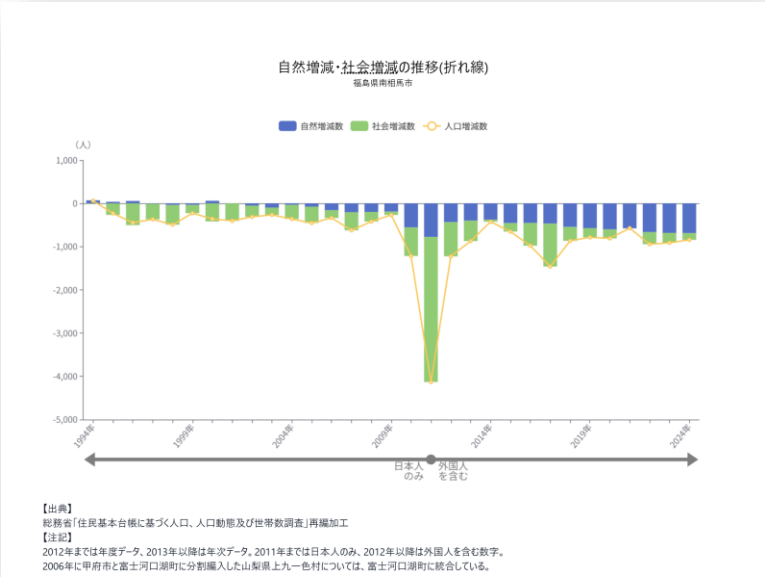
※2010年→2015年については、データなしのため、非表示となっている。



＊人口マップ→社会増減分析→人口移動

自然増減・社会増減の推移

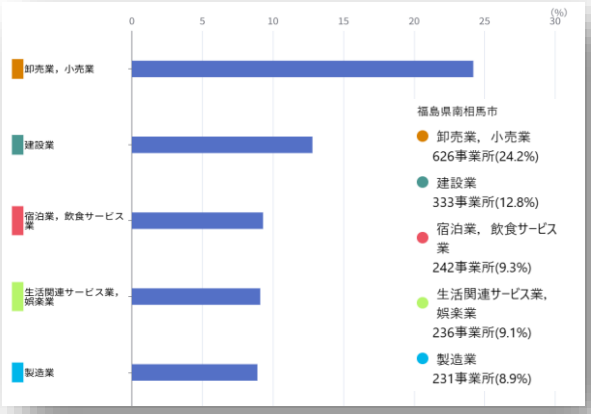
自然増減数（出生数から死亡数を引いた値）と社会増減数（転入者数から転出者数を差し引いた数値）の推移を示したグラフである。近年、自然減・社会減の傾向が強く、全体の人口としては減少している。



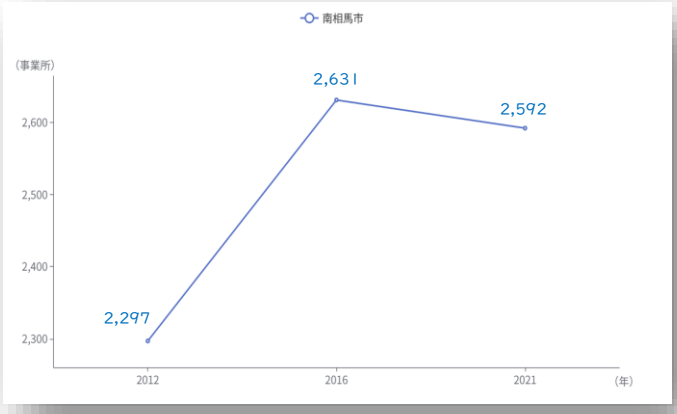
＊人口マップ→人口増減分析→グラフ

産業構造

事業所数（事業所単位）：2,592事業所



＊産業構造マップ→産業構造分析→産業構成（事業所数）



＊産業構造マップ→産業構造分析→推移（事業所数）

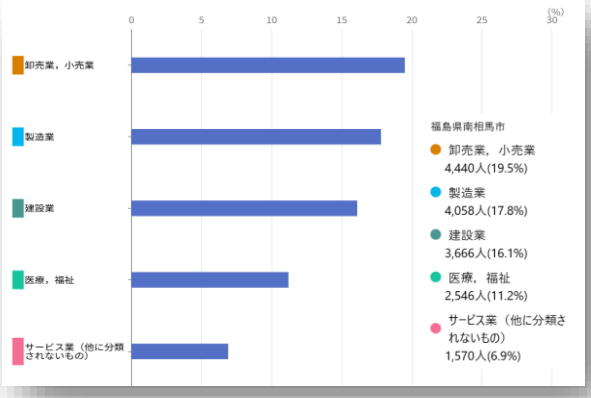
事業所数（事業所単位）大分類（2021年）

業種ごとの事業所数を上位順に示したグラフである。もっとも多いのは「卸売業,小売業」の626事業所で、全体の24.2%を占めている。その後「建設業」の333事業所の12.8%が続く。

事業所数の推移（2021年）

事業所数の推移をみる。
2021年は2,592事業所であり、5年前の2016年は2,631事業所だったので、比較すると1.5%減少している。2012年と比較すると、12.8%増加している。

従業者数（事業所単位）：22,742人



＊産業構造マップ→産業構造分析→産業構成（従業員数）

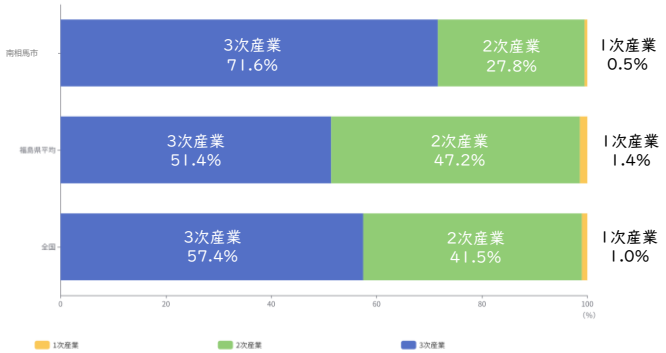
＊産業構造マップ→産業構造分析→推移（従業員数）

従業者数（2021年）

業種ごとの従業者数を上位順に示したグラフである。もっとも多いのはの4,440人で、「卸売業,小売業」全体19.5%を占めている。その後「製造業」の4,058人の17.8%が続く。

従業者数の推移（2021年）

従業者数の推移をみる。
2021年は22,742人、5年前の2016年は22,665人だったので、比較すると0.3%増加している。2012年と比較すると、19.7%増加している。



＊地域経済循環マップ→生産分析→地域産業の構造

地域内産業の構成割合（2022年）

南相馬市の生産額を指標に産業の構成割合を全国および福島県と比較したグラフである。3次産業の割合が71.6%であり、全国および福島県平均と比べて高い。一方、2次産業の割合は、27.8%と全国および福島県平均と比べて低い。

＊1次産業・・・農業、林業、漁業など
＊2次産業・・・製造業、建設業、工業など
＊3次産業・・・商業、金融業、医療・福祉・教育などのサービス業や、外食産業・情報通信産業など

小売業・卸売業

＊産業構造マップ→産業構造→推移

売上高(小売業・卸売業)の推移 (2021年)

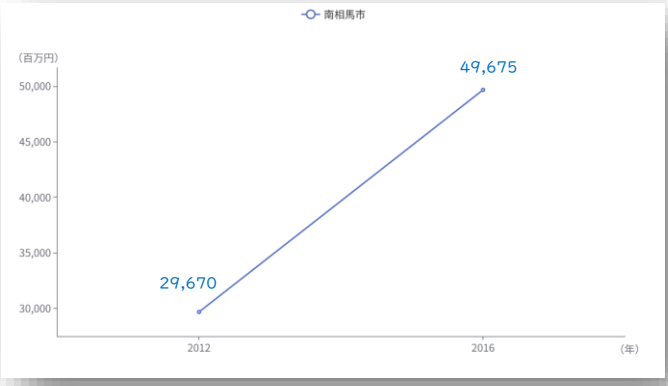
小売業・卸売業の売上高の推移を示したグラフである。
2021年の売上高は59,001百万円である。9年前の2012年と比較すると29,519百万円なので、99.9%増である。

事業所数(小売業・卸売業)の推移 (2021年)

小売業・卸売業の事業所数の推移を示したグラフである。
2021年の事業所数は626事業所、2016年は651事業所であり、2016年と比較すると、3.8%減となっている。
2012年と比較すると、8.7%増である。

＊産業構造マップ→産業構造→推移

製造業



＊産業構造マップ→産業構造→推移

売上高(製造業)の推移 (2021年)

製造業の売上高の推移を示したグラフである。
2016年の売上高は、49,675百万円である。4年前の2012年と比較すると29,670百万円なので、67.4%増である。

※2021年の年次データが存在しないため、データが表示されません。

事業所数 (製造業) の推移 (2021年)

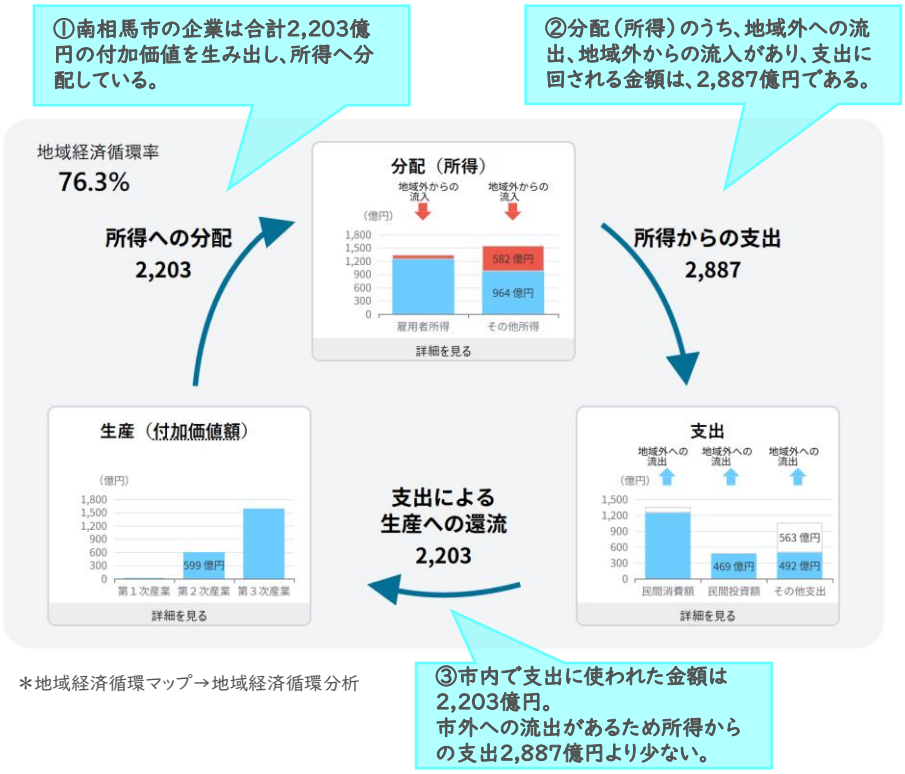
製造業の事業所数の推移を示したグラフである。
2021年の事業所数は231事業所、2016年は249事業所であり、2016年と比較すると、7.2%減となっている。
2012年と比較すると、4.1%増である。

＊産業構造マップ→産業構造→推移

地域経済循環

地域経済循環図（2022年）

地域内企業の経済活動を通じて生産された付加価値は、労働者や企業の所得として分配され、消費や投資として支出されて、再び地域内企業に還流する。この流れを示したものが地域経済循環図である。



＊地域経済循環マップ→地域経済循環分析

付加価値額の構造分析（付加価値額順/2021年）

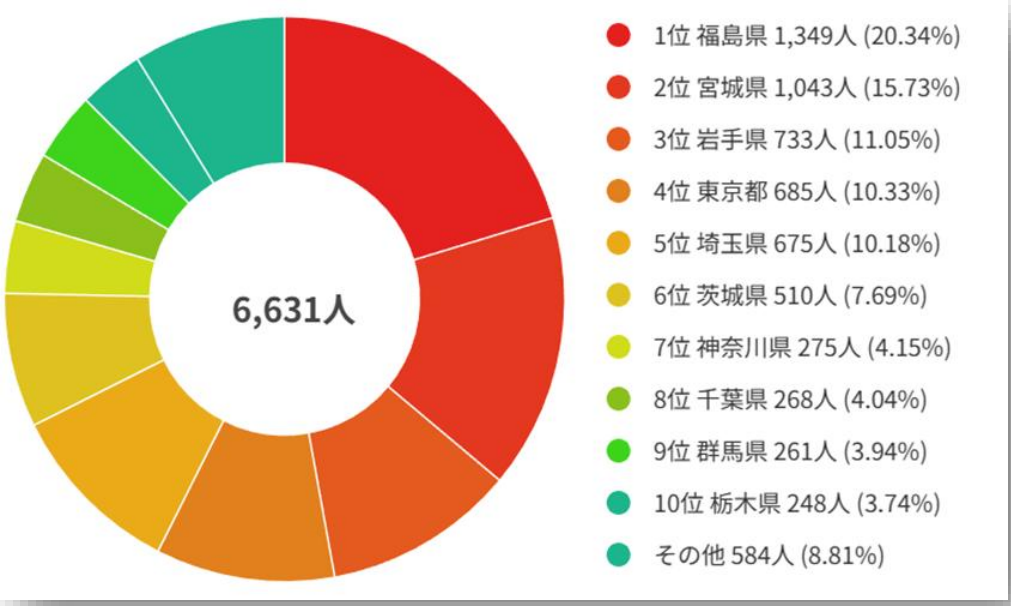
X軸に従業者数、Y軸に労働生産性で表される付加価値額（面積）のチャートである。
付加価値額の要因が、労働生産性と従業者数のどちらの影響によるものなのかを把握する。南相馬市では、「建設業」の付加価値額がもっとも大きく、「医療,福祉」、「卸売業,小売業」の順に続く。

＊地域産業マップ→産業構造分析→付加価値額の構造分析

観光

居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の構成割合（2024年）

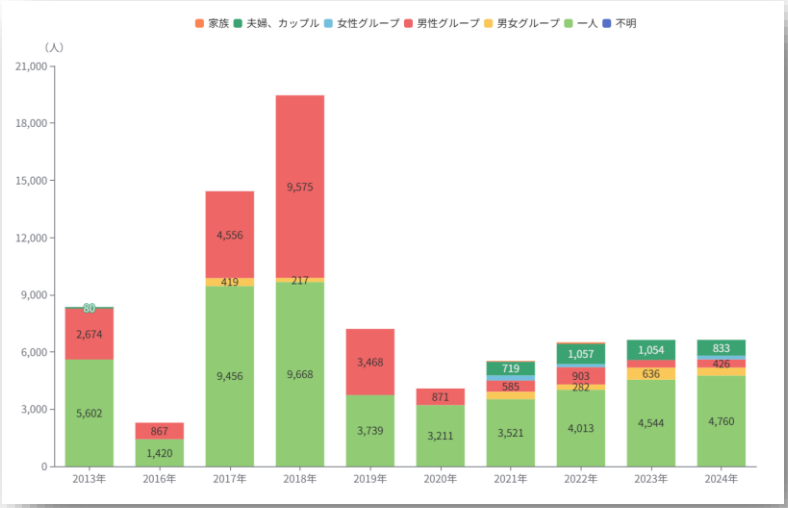
居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の構成割合を示したグラフである。福島県が20.34%ともっとも多く、宮城県の15.73%、岩手県の11.05%が続く。



＊観光マップ→宿泊者分析→居住別都道府県別

属性別の延べ宿泊者数（総数）の推移

延べ宿泊者数の推移を形態別に示したグラフである。
2024年では、もっとも多いのは、「一人」の4,760人、その後、「夫婦、カップル」の833人、「男性グループ」の426人と続く。



＊観光マップ→宿泊者分析→属性別に見る

発行：原町商工会議所
〒975-0006 福島県南相馬市原町区橋本町1丁目35
TEL：0244-22-1141　FAX：0244-24-4182
URL：https://www.haracci.com/